

「ひとりひとり支える」

インターネット上に溢れかえっている根拠の乏しいニュース記事や耳目を集める投稿文には、ある特徴があります。それは「主語が大きい」ということです。どういうことかと言うと、「日本人とは、こうである」とか、「市民は、こう思っている」とか、そういう感じですね。とくに、諸外国との比較や対比の中で、そういう言葉遣いに出会うことが多いです。「〇〇の国の人、こうだから」とかですね。こういう言葉遣いは、確かに、ある程度の経験と実績があるから出て来るもので、真実の一部分は言い当てているのかも知れません。でも、この言葉遣いは、よく人間関係の話で、よく指摘されている「この意見は、みんなが言っていました」という場合の、「みんな」って誰なの？という問題とよく似ています。何らかの苦情や反論を述べる時に、「私の意見です」と言いにくい場合に、「みんながそう言っていた」という言い回しは、まあ、無難と言えば無難です。でも、その「みんな」って具体的に誰のことなのかと考えると、途端に話は不透明になっていきます。同じように「日本人とは」と言う言葉に含まれる「日本人」とは、具体的に誰なのか？「市民は」という時の、その「市民」とは具体的に、どこに住んでいる誰さんなのか。「〇〇の国の人」という時の「人」って実際に会ったことがある人なのか。そんな風に考えるのは、面倒くさいし、ほぼ突き詰めることは不可能な問い掛けなので、全然実用的ではありませんが、でも、そういう「主語が大きい」話を、ちょっと反省して、ちゃんと具体的な根拠に基づいた、つまり顔の見える取材・調査を経た、重厚感ある言葉遣いが増えると、この世界は少し穏やかになるんじゃないかと思えます。

今は、かなり物議を醸す側になってしまっていますが、かつて私がユダヤ教を学んでいた時に、

教授からイスラエルに伝わる格言を教えてくださいました。それは「集合名詞ではなく固有名詞で考えなさい」というものでした。ちょっと小難しいですね。でも、言わんとしていることは、とても大事なことです。

「集合名詞」とは、さっきから指摘している「日本人」とか「市民」とか「〇〇の国の人」とかですね。あと、「男の人」とか「女の人」もそうだし、「大人」や「子ども」もそうですね。これらも「集合名詞」で大きな主語になり得るものです。一方で、固有名詞とは、その存在が持っている唯一無二の名前のことです。例えば、今ここで説教を語っているのは、「日本人」ではなく「男の人」でもなく「有岡史季」という固有名詞をもった人です。

だから、この説教を聴いて「良い話やった」と思うなら、「有岡史季は良い説教者だ」と評価すべきであり、「悪い話やったな」と思うなら「有岡史季は悪い説教者だ」と評価すべきでしょう。もちろん、説教1本で評価を決めつけられたくはありませんが、あくまで例えばの話で。これは当たり前のことですが、私の説教を聴いて「日本人は良い説教者だ」とか「男の人は悪い説教者だ」とは思わないですよ。あと、もちろん「同志社出身の牧師は良い説教者だ、悪い説教者だ」と決めつけるのも気の早い話です。

ユダヤ人は、昔、「ユダヤ人だから」という、たったそれだけの理由で迫害された歴史がありました。名前を持った個人個人の善行も悪行も問われることなく、苦しめられてきた経験が「集合名詞ではなく固有名詞で考えなさい」という格言に至ったのだと思います。いまこそ、この格言を世界の施政者の方々は心に留めるべきなのかも知れませんね。まあ、施政者という言葉も集合名詞なわけですが。

前置きが長くなりました。今日の説教のテーマは、説教題にも記した通り「ひとりひとりを支える」という神様の御業と御力についてです。

聖書には、神様がなさった「凄いこと」「奇跡」が沢山書かれています。最も古くは「天地創造」から始まり、ノアの箱舟にまつわる「大洪水」もそうだし、出エジプトで起こった十の災いも奇跡と言えば奇跡。葦の海を割るといふ壮大な奇跡もありました。その後も、戦争を勝利に導いたり、死者を復活させたり、という奇跡は枚挙に暇はなく、今日の聖書箇所にも、神様の偉大な御力が重ね重ね、繰り返し、繰り返し賛美されています。新約聖書の中にも、水をワインに変えたり、イチジクの木を呪ったり、死者を蘇らせたり、という奇跡は続きます。そして、最終的には「主の復活」といふ大いなる救いの出来事に至ります。

ただ、そういう大小様々な奇跡的な出来事も大事なのですが、私が一番「それが嬉しいよね」と感じる、神様の凄いところは「共にいる」ってことです。こんなことを言うと、誰かに怒られそうですが、正直言って、数千年前の大洪水とか、葦の海の奇跡とか、戦争の勝利とかって、今の私達にはあまり関係ないじゃないですか。「そういうことがあった」といふ信仰的な知識を蓄えて、「だから神様は偉大だ」と信じることは必要です。でも、聖書に書いてある大洪水のお話が、今日明日の私の生活を支えるかって言われると、どうでしょう？「ノアさんが大洪水を箱舟で生き延びた」といふ話を読んで、なんかこう幸せを感じたり、希望を見出したりできるでしょうか？やっぱり、一番大事なのって、「そんな凄い奇跡を起こした神様が、今も一緒にいる」といふ「共にいる」ってことじゃないでしょうか。

しかも、これも考えたら、本当に凄いことで「神様が一緒にいる、共にいてくださる」といふことは、今、この場所だけじゃなくて、全世界で同時に起こっているわけです。神様は、今、この敦賀教会の礼拝堂だけじゃなくて、福井県内なら城之橋教会とか、丸岡教会にもいらっしゃるわけで。中部教区なら、名古屋中央教会にも、南山教会にもいらっしゃるわけで。日本全体なら、今治教会にも、高槻日吉台教会にもいらっしゃるわけです。同じの日の、同じ時間に、少なくとも全て

の日本の教会は、「主は私たちと共におられる」といって祈って、賛美している。そして、その祈りと賛美は、すべて嘘偽りない真実なわけです。

これは、考えてみたら凄いことですよ。神様は、その距離も、その対象人数も関係なく、すべての場所で、すべての人と共にいることができる。だからこそ、今日の聖書箇所のお言葉が語られているわけです。「主は倒れようとする人をひとりひとり支え、うずくまっている人を起こしてください」と。これは文字通りに解釈できる、本当に尊い奇跡だと言えます。神様は、今日も、すべての教会で、いや、すべての祈りの場で、恵みを注ぎ、力を与え、倒れようとする人を支え起こそうとくださっている。「神様は全知全能である」という時に、私が真っ先に思い浮かべるのは、この「主は、いつもすべての人と共におられる」という奇跡です。

なので、ここに来て改めて思うのは、「神様って究極的に固有名詞で考えてくださる方なんだろうな」ということです。神様は、いつも、私たち一人一人の隣に立って、名前を呼んで、御手を差し伸べて、そして力付け、癒し、励まし、祝福してくださる。十把一絡げではなく、全部一遍にではなく。丁寧に、個別に、時間をかけて寄り添って、支え導いてくださる。それが、真に神様の凄いところであり、奇跡であると私は思っています。

最後に一つ。これは私が考えた格言とは言いませんけど、一つの私個人の確信なのですが、神様って慰霊祭というものをしないんですよ、きっと。慰霊祭とは、ある大きな事件や事故で大勢が亡くなった場合に、その遺族関係者が一所に集まって、ともに祈りを合わせる儀式のことです。みんな一緒に戦没者や事故被害者を悼むことを目的としています。それは、とても切実で大切な営みであります。けれど、本当なら、一番良いのは、戦没者や事故被害者が記念されている、それぞれのお墓に向いて手を合わせて哀悼の祈りを捧げることです。死者が10人なら10か所に、100人なら100か所に、千人なら1000か所に、1万人なら1万か所を巡って、お墓の前で悼む時を過ごす。多

分、それができたら一番良いのです。でも、人間には、その膨大な時間が赦されていない。だから、慰霊祭という形で心を込めて皆で悼み、皆で祈る時を持つわけです。しかし、全知全能の神様は、きっと、人間にはできない、すべての人のお墓参りをしてくださいます。1万人なら1万か所、10万人なら10万か所のお墓の前で、神様は涙を流し、その魂の声を聴き、しっかりと受け止めてくださる。私のイメージする神様って、そんな感じです。人には成し得ない、究極的に固有名詞で考えることのお出来になる神様は、私たちの生まれる前から私たちの魂に語り掛け、私たちの人生の一つ一つに寄り添い、私たちの最後の時を見守り、そして私たちの死後も、一人一人、一個一個の魂の声に耳を傾けてくださる。

そんな、凄いことができる神様に、今日もまた思いを馳せ、その御業に驚き、そして感謝と賛美を捧げたいと願うものであります。お祈りをいたします。

神様。今日も、私たち一人一人の名を呼んで、ここに招き、導いてくださり感謝いたします。あなたは聖書が伝える通り、数多くの奇跡を行い、その都度に応じた救いと慰めを与えてくださいました。それによって人々は励まされ、力付けられ、そして今日に至るまで信仰を繋ぐことができました。どうか神様は、この奇跡の見えない時代、奇跡を信じたくとも信じ切れない時代に、あなたが、なお共にいてくださるという確信を忘れることがないよう、私たちのことを支え、導いてください。一人一人に呼び掛け、一つ一つの重荷を共に担い、いついかなる時も、あなたが一緒になって、この日々を歩んでくださっていると、実感することができますように。今日から始まる新しい1週間も、私たちはあなたの御声を探し、その御手に触れられることを求めて参ります。

このお祈りを、大切なイエス様の御名前によって、あなたの御前にお捧げいたします。